

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100689		
法人名	鳥取福祉会		
事業所名	グループホームマロニエの樹		
所在地	鳥取市南吉方2丁目28-2		
自己評価作成日	令和2年 2月 7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.wam.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和 2年 2月 26日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「私らしく暮らすぬくもりの日々」という理念の基、笑顔があふれ楽しく陽だまりのように優しい温かさのある施設を職員一人一人が目指しています。  
 ・家庭的な雰囲気の中で、個別支援に力を入れニーズに沿ったケアを心掛けています。  
 ・笑顔を心掛け、ゆっくりと利用者の方に寄り添い思いを受け止め思いやりのある介護に努めています。  
 ・残存能力が低下しない様に、日常生活動作の中で出来る事を見つけ自立支援をサポートし楽しく支え合いながら生活が送れるよう支援しています。  
 ・焦らず待つ介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりが笑顔で楽しく暮らせるように、利用者の自主性を尊重し、掃除、洗濯等、可能な限り自分で出来るよう、見守り支援されている。入所当初、戸惑いのあった利用者も、職員の根気よい声かけで、今では利用者が率先し協力しながら日常生活を過ごされていた。月1回、週毎の「ミュージックケア」「生け花」「クッキング」「習字」の他、ほぼ毎日レクリエーションが行われ、職員は利用者の要望に応えられるよう柔軟な対応をされている。また、併設の小規模多機能「木もれ陽」と運営の連携をとりながら、地域との交流が出来るよう努められている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	デイルームに2か所掲示し、何時でも目につきやすく、職員が周知し共有出来る様にしている。利用者一人一人に寄り添う介護を職員は、心がけている。	法人理念を玄関に掲げ、グループホーム独自の理念はリビング2ヶ所に掲示されている。年1回の研修で、全職員が振り返り確認をしながら、理念を共有し実践に繋がられている。	理念を外部者に分かりやすい場所に設置されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入しており、回覧板等で情報を収集している。地域活動にも参加し、地域の方との交流を図る様にしている。また、日進小学校の生徒や法人の園児たちとの交流を通して利用者の方が子供たちと触れ合う機会がある。	町内会に加入されている。一斉清掃、納涼祭、避難訓練等の地域行事に参加する他、事業所の「AED講習会」には地域住民も参加され、交流を深められている。また、日頃から利用者と共に公民館に出かけたり、地域の小学校・保育園の児童の訪問等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生が授業の一環として事業所に来訪。その際、認知症についての講話をしたり施設の案内や利用者の方の様子を説明し認知症についての理解を深める事の大切さを伝えている。ボランティアの受け入れを行っているが、今後はボランティアの適正等充分理解し職員とボランティアの相互理解の素体制など整えておく必要があると考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、活動報告、事故報告等を行い、家族、地域の代表、行政の方の助言、要望等の意見を頂き、サービスの向上に活かすよう努めている。現在職員が参加していないが、利用者を受け持つ職員が参加する事で地域との関わり情報共有にも繋がると考えている。	運営推進会議は定期的開催されており、活動実績、サービス提供報告、改善について話し合われている。会議には他事業所の管理者も参加され、アドバイスをもらいサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市の担当者の方も参加して頂き事業所の状況を報告しているので理解、把握して頂き協力関係を構築できるように努めている。	市町村担当者へは運営推進会議での話し合いの際に事業所の状況、取り組みについて報告されている。この度、鍵の必要性について相談し、意見をもらった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき研修を行い、身体拘束をしないような取り組みを心掛けケアに努めています。また、3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し拘束の見直し課題などを話し合い研修に繋がっている。	年間計画に基づき年2回、身体拘束をしないケアについて研修が行われている。3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催し、拘束の有無、必要について記録をするよう徹底し利用者家族等へは説明するようされている。日中、施錠はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底	虐待マニュアルに基づき研修を行い、周知徹		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	底している。入浴時等、身体を観察により異常、虐待への注意を払っている。また利用者の方の尊厳を守り共に暮らす中で虐待が行われていないか半月と年2回チェックリストを使用し言葉使い等も見直す機会なども設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方が1名おられる。入所者方の意向を理解し、後見人様にその旨を伝え双方の関係が維持できるように支援している。職員に対し研修の場が少ないので理解できる場を持つようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分説明を行い不安や疑問、意向を聞きながら納得を得るようにしている。入居後も共に入所者の方を支えるよう家族と共に相談を行うことを伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努めている。また、面会時には利用者、家族との連携を図り要望、意見を傾聴するようにしている。日々の触れ合いの中でも思いをくみ取れるように努めている。	年2回家族会を開催し、利用者と一緒に食事会・レクリエーションに参加してもらう他、職員との話し合いの場を設けられている。面会時には、職員が声かけし、話し易い雰囲気作りに努められている。玄関には意見箱が設置されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会以外でも、ミーティング時や、ワークシートを活用しコミュニケーションを図り意見交換を行い、提案を取り入れ施設の活性化につながりけるようにしている。	管理者は毎月の職員会議、日々のミーティング等で職員意見を聞く他、ワークシートに業務の記録や申し送り事項等記入し管理者および職員全員がコミュニケーションを図れるよう工夫されている。年2回、管理者と職員が面談し、個々の年間目標について話し合わせ、施設運営の活性化に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、意見に耳を傾け要望を聞きながら、日々の生活環境を整え風通しの良い風土作りを心掛けている。毎月希望休暇を確保しリフレッシュしてもらう声掛けをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修カリキュラムに基づいて行っている。研修後は、報告書を回覧し、職員間で共有し意欲の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者による他事業所運営推進会議への参加。管理者ネットワークの会等に参加し、情報交換を行いサービスの質の向上に繋げている。GH事業所合同行事に参加、利用者の方、職員同士の交流の場に繋がった。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係	アセスメントシートを活用し、思いを聞きながら安心感を得て頂けるよう配慮を心掛けてい		
----	--	----------------	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	女心を待て頂けるような配慮を心掛けています。また、職員で情報を共有し馴染みの関係になれるように、安心して暮らせる居場所になるように入所者の方と向き合いながら信頼関係を築けるよう努めています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族とも、ゆっくりと話を聞く場面を作り困りごと、不安に思っている事等をお聞きしながら、常にコミュニケーションを図り入所者の方が安心して生活が送れるように思いを共有しより良い関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方の希望に寄り添い日常生活での様子を見て頂きサービスの内容も説明している。ご家族本人様の意向要望に添えるよう支援方法を考えてプランの作成を行い落ち着いて頂ける様環境を整え馴染みの関係が築ける様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添い話を聴くように努めている。話の内容は、職員が共有し今後のケア支援に繋げるようにしている。教えて頂く気持ちを持ち、支えあう関係が築けるよう共に楽しみながら家事などを通し感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、家族様との大切な時間を共有して頂く為にも、飲み物を提供し日頃の様子を報告したり、廊下に、行事の写真を展示して様子を見て頂いています。毎月、担当者が担当利用者の近況報告を送り日々の様子を報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、知人の訪問は歓迎し居室でゆっくりと過ごして頂くように支援を行っています。職員も会話の中に昔の話などを入れ当時の事を聞き出しながら思い出を振り返って頂けるように努めている。併設の小規模多機能施設木もれ陽に行き、馴染みの職員、利用者へ会いに行く交流の場面もある。	家族・知人等の訪問時は職員がお茶を出し、居室にてゆっくり過ごせるよう支援されている。また、併設施設「木もれ陽」へ行き、なじみの利用者や職員との交流を支援されている。誕生日には希望を聞かれ利用者1対1で出掛け思い思いの場所へ行けるよう工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の方の認知レベル、性格、人間性を見ながら席替え、手伝い等の提供の工夫をしている。その方の落ち着ける場所で時間が過ごせるよう声掛けをしながら関りを持ち、穏やかに楽しんで生活出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員の気持ちや思いを手紙で伝える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を傾聴し職員間で情報の共有を行い、本人様の希望意向に添えた生活が送れるよう支援している。ゆっくりと関われる時間を持つように努めている。家族の方からも、お話を聞き思いを叶える様に務める様にしている。	明るくあいさつや声かけ、気持ち良く過ごせるよう雰囲気作りをし、日々のかかわりや会話の中から、思いや意向の把握に努められている。難しい場合は家族に聞かれたり、利用者の表情等で確認されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にて、本人様、ご家族に話を伺い情報収集を図っている。今までの生活を大切にしながら馴染みの関係が築ける様に寄り添うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイルに合わせ、その方に合う支援方法を見出しながら職員間で共有し情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度、モニタリングを行い、状況に応じ利用者のケアを見つめ直している。様子を理解して頂き、話し合いの基双方が納得のいくケアに結びつくように進めている。	3ヶ月に一度、モニタリングを行い、担当者を通してケアの見直し、確認が話し合われている。必要に応じて見直しされ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化、気づきなどがあればその都度、経過記録に残し職員が周知出来る様にしている。ケアカンファレンスを行い統一したケアが行われる様にすると共に利用者の事で気になる事等話し合う場とし状況状態を見直し振り返る		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態等きちんと把握し家族の状況なども理解できるよう、常にコミュニケーションを図り状況把握に努めている。ニーズに対し、出来る範囲で相談、既存の物で出来る工夫を職員で考え対応できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある飲食店に行き外食を楽しんだり、買い物に行く事で人との繋がりを感じて頂く。地域に溶け込むことで、社会の一員としての自信を持って頂く。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は、家族の方が付き添うようお願いしている。家族の方に、施設での様子をお伝えし、適切な医療が受けられるようにしている。家族の希望で、往診の方もいる。様子を報告し適切に治療して頂いている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医で定期受診され、通常の受診は家族が同行されている。また、困難な利用者については職員が同行受診を検討。近況報告と共に毎月のおたよりで利用者家族に報告され、適切な医療を受けられるよう支援されている	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師に日常的に利用者の方の持病や体調不良時の対応など心身の状態変化について報告や相談を行い連携に繋げている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には、病院に出向き、症状などについて看護師から様子を聞き今後の対応に繋げている。また、相談時は、電話連絡出来るようにしており連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の事業所の方針を説明している。重度化した場合は家族、本人、主治医、ケアマネと相談し方針を決定する様にしている。本人の心身の状況、生活の様子を毎月の近況報告にて知らせている。また、面会時には様子をその都度伝えるようにしている。	看取りについては現在されていないが、入所の際に、利用者、家族へ説明をされている。重度化した場合、利用者の受診時の状態を家族に報告し、主治医と連携を取りながら方針を決められている。	入所の際の急変時、緊急時の対応についての同意書を作成されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しデイルームにいつでも見える様に置いてある。消防局の職員の指導の基、地域住民の方と共に救急救命講習を受講し心肺蘇生法、AED講習会の使い方などを学んでいる。参加できない職員は回覧資料に目を通し周知できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し職員がいつでも見える様にデイルームに置いてある。災害、水害を想定した避難訓練を併設の施設と合同で行い、利用者職員共に参加している。参加できない職員は、回覧された資料に目を通し周知する様になっている。	防災訓練は地域住民にも参加してもらい、年2回行われている。同敷地内にある「木もれ陽」と共同で避難訓練を行う他、年間計画にもとづいて全職員が避難できる方法を身につけられている。	避難後の所在確認が共有できるよう検討されたい。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の特性を理解し今までの人生背景、認知症の症状を正しく理解し感情や気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。職員間で、情報を共有し自分だけではなく多様な視点で利用者へと向き合い個々にあった声掛けや対応をしていく。	ワークシートを活用しケアカンファレンスを毎月行われている。一人ひとりの人格を尊重しながら、1対1で対応し、感情や気持ちに寄り添ったケアに努められている。また、利用者への対応や言葉かけには気を配られていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援	会話の中から得た思いや、希望は経過記録や		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ワークシートに残し職員が情報を共有し支援に繋げていく。意思を伝える事が困難な利用者の方に対しては、興味や関心のある事を話題の中に入れ選びやすい様に選択肢を用い言葉かけをしながら希望や思いを引き出す様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	大まかなスケジュールは決まっているが、日々、テレビを見たり、会話をされたり、居室で過ごされている。なるべく利用者の方が楽しめる様な物を提供していこうと努めようとしている。利用者の方の声に応じられない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、馴染みの美容室にご家族の方と出掛けられたり、家族の方が来所時散髪をされたり、訪問美容を利用されています。季節に合う服が着れる様家族の方、担当職員がタンスの整理、衣替えを行い環境整理をしている。朝の洗面時、鏡を見ながら整髪して頂いたり。洗面台に、個々がブラシを置き好きな時に整髪されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態を把握し、食事の提供を行っている。身体状態にあわせ、「お粥」の提供やメニューを変更する事もある。食欲を引き出す声掛けなどの工夫に努めている。月に一度、クッキングの日を設け利用者の方と一緒にメニューを決め、その日は皮をむいたり出来る役割を持って頂き、調理に参加して頂いている。	利用者と職員は配膳、食器拭き、テーブル拭き等一緒に行い、明るい部屋で、会話を楽しみながらゆったりと食事をされていた。月1~2回、ご当地メニュー等を提供し、月1回クッキングの日を設け、利用者と共にメニューを決め、役割を持って調理に参加し楽しめるよう工夫されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し、食事の提供を行っている。食札にご飯の量、柔らかさ、形態を記入し統一した食事の提供が出来る様になっている。身体状態にあわせ、「お粥」の提供やメニューを変更する事もある。食欲を引き出す声掛けなどの工夫に努めている。朝食後、10時と昼食後、15時に嗜好品の提供、入浴後に水分の提供を行っている。水分摂取量の少ない方に対しては少量ずつ回数を分けて提供したり、おしゃれなカップに入れて提供するなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に2回協力医療機関である「みなみ歯科」の医師、および歯科衛生士による訪問があり、歯科検診、ブラッシング指導などが行われる。職員も、ブラッシングの方法など学べる場所になり、口腔状態の相談なども行い日々の口腔ケアに活かしている。食後のブラッシングや義歯洗浄時口腔内の異常発見の有無に努めている。週に一度入れ歯洗浄の日を設けている。今後、うがいのコップなども消毒する日を設けるなど検討している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人に合わせ、その方に適したギャザパンツや尿取りパッドの使用を行っているが、日中、夜間でパッドの種類を変えたりマジックテープの物を使用し排泄動作も考慮しながら支援している。トイレに行かれた際には時間、排泄の有無、失禁の状態もチェック表に記入記録し、職員間で情報の共有を図っている。状態を見ながら声掛けを行い失禁を減らしトイレで排泄できる支援を心掛けている。	一人ひとりのパターンを把握し、自然な形で見守りしながらケアが行われている。また、失禁を減らしトイレで排泄できるよう、日中、夜間では利用者に合わせてパッドの種類を考慮し変えられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェックシートに記入し排便確認に努めている。便秘傾向にある利用者の方に対しては、水分補給が充分であるか、食事量の変化、心身の状態変化はないか等観察し対応に繋げている。細めに水分補給を行う、乳酸菌の入っている飲み物の提供、歩行を取り入れ適度な運動を生活の中に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調不良や、強い入浴拒否の場合を除き週に2回以上の入浴が出来る様にしている。更衣場の温度、湿度、風呂の湯温を測定し利用者の方が安心して入れる環境作りに務めている。柚子ぶるや、入浴剤を使用しリラックスできるような工夫を取り入れている。	週に2回以上の入浴が出来るよう、一人ひとりの希望に沿った支援に努められている。また、体調不良や強い入浴拒否の利用者には無理強いせず、環境を変えて自然な形で入浴出来るよう工夫をされている。浴室、脱衣所の温度管理もされていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方の心身の状態に応じ昼食後の午睡や適宜ベッドに臥床して頂き休息して頂くようにしている。居室のエアコンの温度調整など寝るときに快適に過ごせるよう環境整備に努めている。夜間、良眠できるよう日中に歩行の機会や、外気浴など日常の中で活動量が増える支援の提供を検討したい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表に、各個人の処方箋を挟み何時でも確認出来るようにしている。薬の管理は、看護師、管理者が行っている。一日分毎、セットしてある薬箱の中から職員間で確認し朝、昼、夕、眠前に分ける。服薬介助時は、ダブルチェックと声出し確認を徹底し誤薬防止に努めている。処方変更時は、職員が分かる様にワークシートに記入すると共に、利用者の方の心身の状態変化の観察に努め普段と違う様子があれば経過観察に残し看護師に報告をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	水分補給時に提供する飲み物は利用者の方にメニュー表の中から選んで頂き選ぶ楽しみを大切にしている。ゴミ捨て、家事活動を行う中で役割を持って頂くように支援している。毎月の行事や、ミュージックケアの日、生け花の日等掲示板に記入する事で楽しみにされている利用者の方もおられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	消耗品、食品の購入など職員が、利用者と店と一緒に出かけたり、毎日のゴミ捨てや、天気の良い日には散歩に出掛け外気浴を取り入れる様にしている。誕生日には、担当職員が中心となり外出支援の計画を立てドライブや外出に出る機会を設けている。外出には、地域の店を利用している。	年間行事をたて、戸外に出掛けられるよう支援に努められる他、日常的に散歩、テラスでの外気浴、買い物等に出かけられている。誕生月には担当職員が中心になり外出支援をされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際には、利用者の方が、支払いを行うように支援している。また、ご家族了承の素金銭を所持され、散髪買い物時にはご自分で支払いをされ自己管理されている方もある。自己管理が困難な方に対しては家族の方と相談の上、施設で預かる場合もある。生活日用品を近隣の店に、利用者の方と出掛け購入する場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおられ、自由に家族の方と連絡を取り合われている。利用者の方から、電話をかけて欲しいと要望があれば状況に応じ担当者、又は対応職員が連絡し思いを伝える事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられる壁面を職員、利用者協力しながら一緒に作成している。温度、湿度計を設置しエアコンを使用し、室内の温度調整に努めている。また、朝の掃除時には換気を行うなどしている。カーテンで、採光を調整して此処と良い空間作りを務めている。	共用空間では利用者が生けた花が飾られ、壁には季節ごとの利用者の作品が飾られていた。温度、湿度管理に努められ、換気はされながらリビングは清潔で快適な空間となっている。また、洗濯室が別にあり、各自での洗濯が出来るよう配慮され、他の利用者とは違う事が無いよう工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファーや本棚を置き、デイルーム以外でも気が抜ける場を設けている。また、廊下には、ソファを置き思い思いの場所で過ごせる工夫をしている。デイルームは、配置の移動が出来ない現状があるが、少しでも環境改善が出来る様に努力したい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮	仏壇、冷蔵庫、ソファーの設置等、利用者個々に応じた、本人様家族の方の希望に合わせた職員	清掃が行き届き、空気清浄機、エアコン、トイレが設置されている居室は、利用者の好みの中	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	に応じ、本人様家族の方の希望に合わせ職員も相談に応じながら過ごしやすい環境作りに務めている。	が設置されている居室は、利用者の好みのも のや、冷蔵庫・ソファ等が置かれ、居心地よく 過ごせるように工夫されている。また、訪問者 があった場合もゆっくと過ごせるよう環境を整 えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、名前を貼り居室の認識がしやすい 様にしている。利用者の方の能力に合わせてイ レを分かり易くしている。自分自身で行動でき るよう環境整備に努めている。残存能力が 発揮できるよう居室内の整備等今後の課題と している。		